

銀漢亭日録



伊藤伊那男

5月24日(水)▼店、「や」の麻里伊、中村十朗さん来店。超閑散にて、元「俳句」編集長の秋山実さんと鳥居三太さんのことなど思ひ出話を楽しく聞く。二十一時、「金星句会」六人。

25日(水)▼十三時、日本橋。スタバで作句。十四時、「一鰯の与志喜」にて「纏句会」。今日はNYから戻った月野ぼぼな(伊那北後輩)、来月からパリに住む堀切克洋さんがゲスト。五人ほど欠席があったので十一人。あと題の蝦蛄(牡・牝)、卵豆腐の汁碗、かますの塩焼、茄子の揚げ出し、握り。そのあと松代展枝さんの菓鴨の実家へ。ぼぼな歓迎会。超結社で二十人ほどの宴会となる。

27日(月)▼「閨句会」(ホトトギス藤森莊吉さん)八人。敦子、ぼぼな……あとうさぎ、敦子、小石さんと餃子屋。

28日(火)▼十三時、俳人協会。能村研三理事長、染谷事務局長、今井聖理事と挨拶。十四時から師系以外の俳人の第一句集を読むシリーズで私が阿波野青畝の「萬両」を読むの講座。九十分喋る。店「ひまわり句会」あと八人。洋酔さん誕生祝いとしてヴーヴクリコで乾杯。

29日(水)▼選句。店、月野ぼぼなさんと伊那北高校同期の三人。内二人は慶大の後輩にあたり、嬉しいこと。一平さん、早稲田時代の同級生と三人。我部敬子さん「衣の歳時記」刷り上がる。

30日(木)▼選句。店、皆川文弘さん久々。閑散。「港」の小太郎さん。宝物シリーズの手拭を受賞祝いに。

31日(金)▼超閑散、二十一時半閉める。

6月1日(土)▼終日家。七月号の選評。時々昼寝、時々テレビ、時々

料理。夕飯は家族揃って鯛の兜煮、牛蒡、厚揚げ。スベアブリブ、岬さんのニンニク素揚げ、新玉葱のサラダ、新じゃがのベーコン炒めなど。赤白のワイン。

2日(日)▼十四時、中野サンプラザにて「春耕同人句会」五十人程。あと「灸谷」にて親睦会。あと窪田先生他六名程でもう一軒。

3日(月)▼彗星集選評書いて七月号の執筆終了。堀切克洋君と夫人、演劇仲間+琴ちゃんの会。「つの会」五人。「かさ、ぎ俳句勉強会」あと十一人。三笠書房押鐘会長他、日本酒の会のあと。

4日(火)▼堀切克洋君のバリ転居送別句会。超結社で四十名程が集まる。「堀」「切」「克」「洋」の詠み込み。小野寺清人さんが鯛の半身持ち込み。気仙沼の牡蠣養殖の畠山重篤先生が来店。新著『牡蠣の森と生きる』をいただく。

5日(水)▼信濃毎日新聞文化欄へのエッセイの校正。担当記者とのやりとりなど。郷里駒ヶ根で市会議員をしている従兄弟と久々電話。店、十七時、吟行あとの「きさらぎ句会」六人。「宙句会」あと十三人。十周年記念号打ち合わせあとの編集部九人。秋葉男さんが見事な鯛の冊を持ち込み。ちらし鰯用意。

6日(木)▼「白熱句会」、欠席多く四人と淋しいので、来店した山田真砂年さんを急遽誘い込む。阪西敦子さんも来たので選句頼む。「十六夜句会」のあとの十一人。俳人協会の私の講演会を聞いたという埼玉の方四名訪ねて来て下さる。「山暦」の前澤宏光さん(伊那北高校先輩)。「山暦」は終刊。

7日(金)▼池田のりをさん、安藤さん(伊那北先輩)と。一平さんと鈴木忍さん打ち合わせと。「大倉句会」あと二十人。今週は久々忙しく嬉しいこと。

8日(土)▼十時、運営委員会。午後「銀漢本部句会」五十四人。あと「上海庭」にて親睦会。

9日(日)▼終日雨。中村孝哲句集『幻化』の序文、九枚程。夜、笹身と胡瓜の辛子和、鯛の兜煮、鮎刺身、蕪のサラダなど作り家族で食事。

10日(月)▼「あ・ん・ど・うクリニック」血糖値、基準をオーバー。夜中の飲食をたしなめられる。心当たりは十分あり。店、閑散。雨。

11日(火)▼栗田やすし先生(「伊吹嶺」顧問)句集『半寿』の句評、角川「俳句」(八月号)へ。店、「雛句会」の山本先生。駒ヶ根市長杉本君と秘書の中嶋さん。そこへ信濃毎日新聞の峯村健司さん、東京へ転勤と。神戸の小野さん、東京の友人と。『然々と』を持参して来られ、サイン求められる。奥は「火の会」十一人。ほとんど参加できず。

12日(水)▼超閑散。仕込みをして二十時頃閉める。帰宅すると家族がこれから食事だということで参加。

13日(木)▼ヘアメイクの中川さん来宅。カットして貰う。店「極句会」あと十人。早い時間に鳥谷操さん寄ってくる。

14日(金)▼杉阪大和句集『思郷』につき「銀漢」八月号へ句集評二頁分執筆。店、堀切克洋君、琴葉ちゃん、いよいよ数日後パリへ移住と。堀切君は一月に一度戻ると。三年後、琴葉ちゃんどう成長していることか。更に可愛く、賢くなっているんだろうな……。

16日(土)▼「薫風」創刊三十五周年記念会の講演資料作成。風土性俳句の変遷について。十五時、溝ノ口の高津市民館大ホールでミュージカル「オズの魔法使い」鑑賞。孫の伶輔君が子役で出演。

17日(月)▼「演劇人句会」七人。堀切克洋君、夫人、夫人の父上夫妻、琴葉ちゃん。パリ行き最後の挨拶に来てくれる。

18日(火)▼梅雨晴間。「銀漢」八月号の原稿書く。店、皆川丈人さん。お嬢様と娘婿の梅田高史さん(朝日新聞)、皆川文弘さん。藤森莊吉さんの「閨句会」九人。「週刊金曜日」の伊達さん他。

19日(水)▼伊那北同期「三水会」今日は四人。十六期下の御子柴君(慶應後輩でもあり、弁護士)。私の本を七月の総会で賞品に出したいとて来店合流。「銀漢亭こぼれ噺」三冊渡す。銀漢会員で吉野在住の峰谷さん出張で来たので寄ってくる。あとは閑散にて二十二時閉めて、展枝、井蛙さんと餃子屋。

20日(木)▼伊那の井月俳句大会で講演していただいたことのある今泉恂之介氏(日経OB)とその仲間「三四郎句会」の面々五人来店。「銀漢句会」あと十人と少ない。うさぎさん句会あと麒麟さん他と六、七人。

21日(金)▼羽田発十一時十五分にて旭川。「月の匣」年次総会にゲストとして呼んでいただく。真砂年、陶句郎、大島さんと。和風旅館「扇松園」に入る。総会冒頭に挨拶したあと、四人で街に出て「蜂屋」の旭川ラーメン。並びの「ぎんねこ」という焼鳥屋で昼から酒。戻って十八時から宴会。津軽三味線の菅野優斗さんの演奏あり。

22日(土)▼八時半発。大雪山系の麓、羽衣の滝へ。地元のホテルで藤信義さんの案内の地元「雪華」主宰の橋本喜夫さん合流。桂の古木が見事。露、独活の葉が大きい。旭川市博物館にて昼食。資料館見学。アイヌの聖地「神居古潭」。駅舎跡がいい。雨の中。戻って句会。食事のあと、二十時過ぎから街に出る。「独酌三四郎」という店で地酒「男山」を飲む。小皿料理の数々。

23日(日)▼九時発。ようやくの快晴。旭川市旭山動物園を三時間程。美瑛町へ。麦、ビート、ジャガイモなどの畑の綾が見事。残雪の十勝連山が美しい。あちこちのスポットに寄り、十勝岳山麓の望岳台へ。手の届くほどの近さに富良野岳、十勝岳の噴煙。美瑛岳、美瑛富士などが拡がる。青い池などを見て旭川空港へ。二十一時、羽田着。水内慶太主宰の「月の匣」の皆様はすっかりお世話になる。感謝！